

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定第4677100168号		
法人名	有限会社 健やかクラブ		
事業所名	グループホーム 元氣		
所在地	鹿児島県鹿屋市串良町細山田5340-2 (電話) 0994-31-0161		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年4月14日	評価確定日	平成21年5月2日

【情報提供票より】 (平成21年 4月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 11 月 2 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	6人, 非常勤4人, 常勤換算7.3人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て準耐火構造 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	15,500 円	
敷金	有( ) 円 ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1050 円	

### (4) 利用者の概要 (4月1日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 74.7歳	最低	59歳	最高	95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	上園医院・まつおか歯科医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「心こそ大切なれ」の理念に添って、運営者や職員は入居者のペースを尊重し、喜怒哀楽を共にしながら、家庭的な雰囲気の中で支えあっている。鳥の声や緑に囲まれた自然豊かな住みなれた地域で、広い敷地に桜やみかんの木などが植えられ、また花壇や菜園があり、犬や猫が飼われ、世話をしながら、その人らしく暮らし続けられるよう支援している。生活感や季節感、人の暖かさが伝わってくるホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	理念が見直され、地域密着型サービスとしての役割をふまえた理念を作成して改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員に自己評価の意義や活用方法等説明し、全員で検討し具体的な改善点など話し合い、サービスの質向上に活かそうと取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に家族代表や地域住民代表、市の担当者など多くの人の参加を得て開催している。地域住民との交流や消防器具の設置状況などの意見について具体的に話し合い、サービス向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居時の説明文書に、苦情・相談窓口について説明している。面会時に家族会や運営推進会議などで家族が意見や要望等表す機会を確保している。受けた意見や要望はミーティングで話し合い、運営に反映させるように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩時や外出時には地域住民への挨拶を心がけ、花の苗を住民に提供したり、住民から野菜をもらったり気軽に交流している。ホーム主催の敬老会や花見に招待したり、地域の夏祭りに参加するなど地位の人々との交流に努めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時の理念を見直し、地域密着型サービスとして、果たすべき役割を考えて、事業所独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関や台所の見やすいところに掲示し、ミーティングや申し送り時に唱和し共有している。管理者・職員は理念を念頭に毎日のケアに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や外出時には地域住民への挨拶を心がけ、花の苗を住民に差し上げたり、住民から野菜をもらったり気軽に交流している、ホーム主催の敬老会や花見に招待したり、地域の夏祭りに参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価での改善項目について、前向きに改善に取り組んでいる。自己評価については、全職員に意義やねらいを説明し、全員で検討し、サービスの質向上に活かそうと取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に家族代表や地域住民、市の担当者など多くの人の参加を得て開催している。そこで出た意見で、地域との交流や消防器具の設置状況など、具体的に話し合いを行い、サービス向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長や管理者は市担当者に、ホームの運営や現場の実情など報告・相談し、アドバイスや意見をもらうなどして、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを発行し、行事や入居者の様子を写真入りで掲載し報告している。個々に面会時や電話で入居者の様子や健康状態など報告している。。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に説明文書にて、苦情・相談窓口について説明している。家族会や運営推進会議に家族代表にも参加してもらい、意見や苦情を表す機会を設け、家族からの意見をサービスに反映させるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	経験者や有資格者を採用し、異動はほとんどない。採用時には、認知症や対応方法についてオリエンテーションをするなど利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員育成のために、外部研修やホーム内での勉強会の他、外部から講師を招き研修を実施するなど、職員を育てる取り組みを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に参加し、研修受講や交流があり、他のホームの管理者・職員と意見や情報交換を行い、お互いにサービスの質向上に役立てている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院からの入居希望が多いため、病院に出向き、利用者に面談したり、家族にホームの見学を勧め馴染みの関係を作るよう工夫している。入居後は家族の面会回数を多くするなど、徐々に雰囲気になじめるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	梅干しやらっきょう漬け、筍の水煮などの保存食作りや畑の野菜作りなど教えてもらうなど、利用者と職員が支え合って生活している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族からの聞き取りや日々のコミュニケーションの中で、一人ひとりの思いや意向を汲み取るように努めている。困難な方についても本人本位にしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントや主治医の療養管理指導、家族からの意見を参考に職員で話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の期間に応じ、モニタリングを実施し計画の見直しを行っている。状態変化時は家族や主治医等関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護と提携し医療連携体制をとっており、24時間の健康管理体制がある。通院や受診支援など家族と相談し柔軟に支援している。正月の帰宅時の情報提供など支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する主治医の受診を支援している。訪問看護や訪問診療など適切な医療受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に事業所ができるケアについての方針を文書化し、入居時に対応方針について説明し、確認している。主治医や訪問看護師との連携が図られている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員には採用時に誓約書を交わし、個人情報保護法について確認している。職員は「心こそ大切なれ」の理念に沿って、言葉かけや対応など一人ひとりの誇りを尊重している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事・入浴など入居者のペースを大切に支援している。散歩や外出、くつろぐ場所など自由に過ごしてもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分達で作った野菜を使い、下ごしらえや後片付けなど一緒に行ない、職員と会話を楽しみながら食事をしている。外食や出前を取るなど食事を楽しむ取り組みも行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週3回と決めているが、時間は入居者の希望する時間に入浴している。入浴剤を利用して温泉気分を味わってもらうなど、入浴を楽しめるよう工夫している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しやたたみ、畑作りや草取りなど生活歴や力を活かして役割を持っている。サワーポメロの樹を契約栽培し、収穫を楽しみにしている。桜やアジサイなど季節の花見も実施し、喜ばれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭が広く、花園や菜園の様子を見に庭に出たり、ウッドデッキでの外気浴、近隣の散歩など、ホームに閉じこもらず、戸外に出るように支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者や職員は日中に鍵をかける事の弊害を認識し、見守りや連携などにより、日中は鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域消防団と協力し、定期的に消防訓練や避難訓練を実施している。自治会長の協力や家族に消防関係者がおり、意見やアイデアを受け心強い協力が得られている。台風時の貯水など準備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の職員がおり、栄養バランスなど工夫した献立を作成している。水分や食事の摂取量などチェックし記録している。おかゆやとろみなど食べやすく個別に支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材がふんだんに使われている共用空間は、畳コーナーから続くウッドデッキ、玄関近くのソファなどが配置され、開放感と季節感がいっぱいである。窓や天窓など工夫され光や風も調整され、居心地良く過ごせる空間が作られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使い慣れたタンスや置時計等を持ち込み、入居者の写真入りのカレンダー、自分で書いた作品など飾られ安心して過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。